

伝えたい

まちの遺産

国史跡 杉山城跡
三、遺物は語る

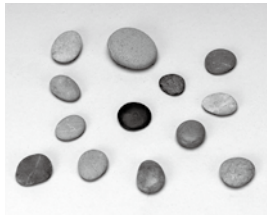
居館跡では、過去6年間の発掘調査で14万点を超える土器・陶磁器などの遺物が見つかりました。完全な形で見つかるものは少なく、ほとんどが小さな破片ですが、じっくり観察してみると、中世の人々の生活が目に浮かんできます。

居館跡で一番多く見つかったのは、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土器です。この土器は儀式や宴会で使用されたり、夜間に建物内の明かりを採るための灯明皿として使用されたりしていました。儀式や宴会で使用したものは縁起を担ぐのか一度使用したあとすぐに廃棄していたようですが、灯明皿のほうは皿の縁に満遍なくスガが付着しており、灯芯を移動させて何度も使用していたことが伺えます。

地元産の越前焼は、中世では生活用品である壺・甕・播鉢の3種類を生産していました。居館跡でも、特に建物があった「大屋敷」地区や倉庫があったと推定されている「西ノ谷」地区で、播鉢や大甕の破片がたくさん見つかりました。播鉢はどれも擦り目が摩耗してわからないほどよく使い込まれており、灯明皿の件と併せて考えても当時の人はモノを大切に扱っていたようです。また、大甕は少なくとも6個体以上あったことが確認されています。そのうちのひとつだけ形がひどく歪んでいることがわかりました。製品としてはあまりかたに不良ですが、穴があいていなければ甕として使用するにはまったく問題がないため、少々形の悪い甕を安く買って経費の節約をしたのかもしれない。



越前焼・大甕



碁石



土器・陶磁器類

このように、中世の人々が遺した土器や陶磁器は、現代の私たちに当時の生活の様子を垣間見せてくれます。居館跡から出土した遺物は14万点以上。今後の調査や研究で、また新たな発見があることでしょう。

この他には、瀬戸美濃焼や石製品、鉄製品なども見つかっています。特に文房具のひとつである瀬戸美濃製の水滴（水差し）や茶道具である天目茶碗、碁石が見つかることから、戦のない時期の城主は和歌を詠んだり囲碁を楽しんだり、お茶を点てたりして優雅なひとときを過ごしたことが想像できます。

その一方で、中国からの輸入品である高価な陶磁器も多く見つかっています。主なものとしては、青磁、白磁、天目茶碗があげられます。これらは日常的に使用するのではなく、観賞用の座敷飾りとされていました。このような高価な陶磁器を所有することが、城主としての権威を示すひとつの手段であったと考えられます。館を訪れた人々は、通された座敷に並ぶ陶磁器を見て、館の主人に対する畏敬の念をますます強めたことでしょう。

ウォーターランドは皆様の健康づくりをお手伝い！



ウォーターランド通信

ウォーターランド南条 ☎ 47・3711

☆ジュニア水泳教室開催中！

水泳を通して、お子様の健康で元気な成長を目指します。左記のとおり教室を開講中ですので、お気軽に問合せください。

◎ジュニアクラス（6歳児〜小学6年生）

月〜土曜日まで計11クラス開講中

◎幼児クラス（4歳児〜5歳児）

火・木・土曜日に開講中

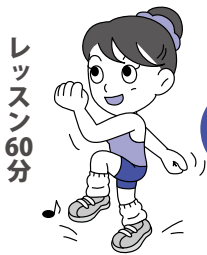
◎選手・育成コース

競技大会参加を目標に週3回以上開講中

☆好評！レッスン＆ランチパック

5名以上のグループで申込みしてください。レッスンはプールかスタジオを選択できます。

料金：お一人様 2,009円



レッスン 60分

楽しさ 倍増！

プラス



ランチ

